

事務連絡
令和8年9月29日

各都道府県消防防災主管部(局)
各消防本部 御中

消防庁救急企画室

マイナ救急の一層の活用推進に向けて（依頼）

平素より救急行政の推進につきまして、格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、マイナ救急については、昨年度の実証事業を経て、本年度から各消防本部における本格運用となっているところ、消防庁では、「マイナ救急の全国展開に係る検討ワーキンググループ」（以下「WG」という。）を開催し、更なる活用の推進やシステム改善に向けた検討を進めております（9月7日に第1回を開催）。

つきましては、下記のとおり、WGの検討内容について情報共有するとともに、WGでの意見・議論等を踏まえ、取組等を依頼しますので御協力をお願いいたします。

記

1 WGの検討内容について

消防庁においては、消防本部から寄せられた意見やWGでの議論を踏まえ、更なる活用の推進に向けてシステムの改善に取り組むこととしています。具体的には、以下の取組を進めています。

（1） ログイン負担の軽減について

昨年度の救急隊員向けアンケート調査によると、救急隊員の約81%がログインに負担を感じているとの結果が出たことから、3回のログイン（①端末ログイン、②閉域網（VPN）ログイン、③マイナ救急システムログイン）の負担の軽減に向けて、システム改善を含む方策を検討しています。

（2） 救急医療情報連携プラットフォームとの連携（別添1）

救急医療情報連携プラットフォームとは、救急隊が医療機関に主に口頭で伝えている傷病者情報（主訴・バイタルサインなど）をデータとして登録することで、複数の医療機関に迅速かつ安全に情報共有できるプラットフォームであり、救急搬送の効率化や救急医療の質の向上のため、厚生労働省を中心に構築に向けた検討が進められています。当該プラットフォームとマイナ救急の連携により、救急隊が入力したバイタルサイン等の情報に加え、マイナ救急で得られる受診歴などの情報をまとめて医療機関へ共有するための取組を進めています。

（3） 閲覧できる情報の追加について

今後、マイナ救急で閲覧できる情報として、臨床情報（傷病名、感染症情報、アレルギー情報、検査情報）、処方情報等が新たに追加される予定であり、これらの情報をもとに、より適切な処置や円滑な医療機関選定に繋がることが期待されます。

2 依頼事項

(1) マイナ救急の全救急事案での活用について

マイナ救急については、傷病者本人等から十分な情報聴取が困難な事案において有効であることはもとより、容易に情報を聴取できる事案においても、傷病者の説明負担の軽減につながるほか、聴取内容の補完や確認にも有効であり、実際に、マイナ救急により傷病者の通院歴や処方情報等を把握することで、適切な処置や搬送先選定につながった事例や、傷病者の救命に寄与した事例も報告されています（別添2）。また、実施率の高い消防本部については、マイナ救急を救急活動の標準的な手順の一つとして位置付け、分かりやすい運用フローの整備・周知や、救急隊ごとの実施状況の継続的な把握等に取り組んでおり、日常的な活用を通じて、必要な場面において迅速かつ確実にマイナ救急を実施できる体制を整えている事例もあります（別添3）。

一方で、消防本部毎の活用状況には差が見受けられている状況にあります。

WGにおいても、①マイナ救急は「傷病者のための施策」であること、②その有効性を最大限発揮するためには、必要な場面において迅速かつ確実に活用できるよう、平時から様々な救急事案での活用により習熟度を高めておく必要があること、③傷病者本人等から容易に情報を聴取できる事案でも実施すべきであることが指摘されております。

つきましては、こうした状況を踏まえ、全救急事案での活用を基本として運用していただくようご検討をお願いします。

(2) マイナ救急の活用事例の情報提供（別添4）

マイナ救急の活用事例については、これまでもご報告をいただいているところですが、「マイナ救急に関する説明動画の配信について(令和8年6月29日付け事務連絡)」のとおり、引き続き、情報提供をお願いします。

(3) マイナ救急の閲覧数調査

消防庁が定める一定期間内（11月上旬の1週間程度を想定）におけるマイナ救急の閲覧数（管理アカウントの傷病者確認履歴から抽出することを想定）及び救急出動件数（不搬送、転院搬送を除く全ての救急搬送件数）を報告していただく予定です。詳細については追って連絡します。

(4) 消防本部向けアンケート調査

10月中旬頃を目途に全消防本部を対象に消防本部担当者様向けのアンケート調査を実施する予定です。詳細については追って連絡します。

以上

【問合せ先】

消防庁救急企画室 安全係

金子課長補佐、森係長、高野事務官、
田村事務官、森原事務官

電 話：03-5253-7529（直通）

E-mail：kyukyuanzen@soumu.go.jp

救急医療情報連携プラットフォームとの連携に関する検討(現状の課題と今後の展望)

- 救急隊から医療機関への連絡は主に電話で行われており、マイナ救急で得られた傷病者情報についても、口頭で医療機関へ伝達している。
- 厚生労働省を中心に「救急医療情報連携プラットフォーム(PF)※」の構築に向けた検討が進められている。
- PFにマイナ救急で得られる受診歴などの情報を連携させるため、今年度は要件整理・改修仕様書案を作成予定。

【マイナ救急と救急医療情報連携プラットフォームとの連携イメージ】



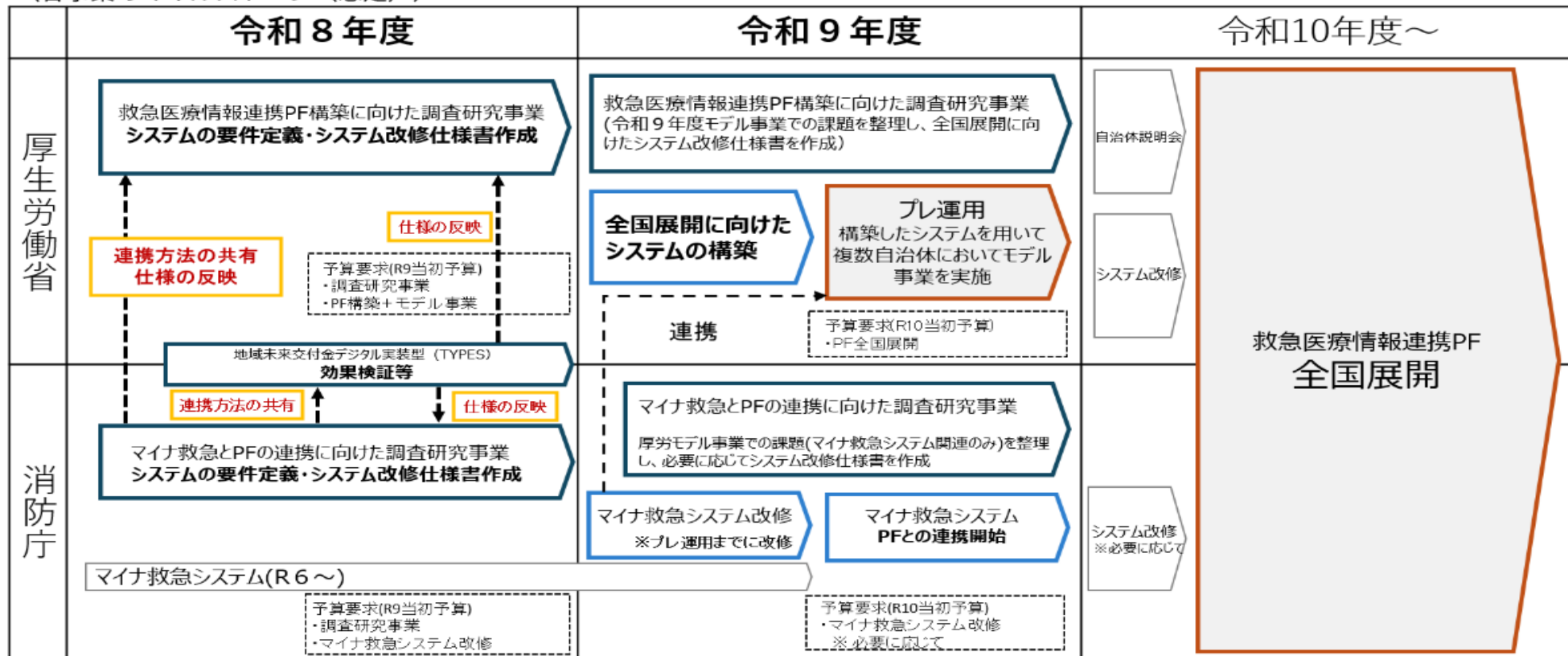
※ 救急隊がこれまで医療機関に口頭で伝えている傷病者情報(主訴・バイタルサインなど)をデータとして登録することで、複数の医療機関と迅速かつ安全に情報共有できるプラットフォーム。救急搬送の効率化や救急医療の質の向上のため、厚生労働省を中心に構築に向けた検討が進められている。

救急医療情報連携PFの全国展開に向けたスケジュール（想定）（マイナ救急との連携含む）

マイナ救急との連携を含めた救急医療情報連携PFの全国展開に向けては、以下を想定。

- 令和8年度：マイナ救急との連携含めたシステム要件定義及び開発仕様書作成、TYPESを活用した効果検証等
- 令和9年度：全国展開に向けたシステム構築及びプレ運用 ※マイナ救急側の改修・連携を併せて実施
- 令和10年度～：全国展開開始

（各事業のマイルストーン（想定））



【留意事項】 全国展開にあたっては、法的整理や費用負担のあり方について検討する必要がある。



➤ 消防本部に情報提供していただいたマイナ救急の活用事例を紹介します。

事例 (成人 / 吐血・ショック状態)

一命を取り留めた事例

年齢・性別	50代・男性
発生場所	自宅内
通報内容	夫が倒れていた（家族から通報）
接触時の状況	自宅廊下で腹臥位

概要

帰宅した妻が倒れている夫を発見し救急要請。
昨日から4回吐血しており、1年前も吐血があり手術している。

初診時傷病名・程度

吐血・重症

有用性

観察・処置を優先し三次医療機関に搬送した。搬送中にマイナ救急で情報を閲覧し、1年前の手術歴や服薬情報、健康診断の情報を搬送先医師と共有でき、治療方針の決定等に有用であった。

事例 (高齢者 / CPA)

医師への情報共有に役立った事例

年齢・性別	70代・女性
発生場所	自宅
通報内容	CPA（訪問看護師から通報）
接触時の状況	訪問看護師がCPR実施中

概要

訪問看護師が発見。現場には夫がいたが、状態には気づいていなかった。
指令段階でドクターカー要請。
薬剤投与後、ROSCした。

初診時傷病名・程度

CPA・重症

有用性

ドクターカーとの連携事案であり、医師、看護師が同乗したためマイナ救急で情報を閲覧し、薬剤情報を医師と共有でき、有用であったと評価された。

事例 (成人 / 意識消失、けいれん)

情報聴取に役立った事例

年齢・性別	30代・男性
発生場所	仕事場
通報内容	突然の意識消失とけいれん（同僚から聴取）
接触時の状況	けいれんは治まっており、ぼんやりしていた。

概要

突然の意識消失とけいれんがあり、同僚が救急要請したもの
同僚からは傷病者の氏名や住所がわかるのみで、既往歴等は聴取できなかった。

初診時傷病名・程度

てんかん発作・軽症

有用性

「初発のけいれん」なのか「過去にもけいれんしたことがある」のかは重要な情報。今回、救急用サマリーや薬剤情報から通院している医療機関及びてんかんの治療薬を服用していることが分かり、医療機関へ伝達することができた。

事例 (小児 / けいれん)

小児の事案で役立った事例

年齢・性別	男児
発生場所	自宅
通報内容	痙攣が続いている（祖母から通報）
接触時の状況	けいれんは治まっていた。

概要

発熱とけいれん。今回は2回目であると聴取した。

初診時傷病名・程度

痙攣重積・重症

有用性

子どものけいれんの場合、家族は動揺してしまい、冷静に答えられないケースが多い。本事案は、通報者が親ではなく祖母であったことや、動揺していたことから、過去のけいれんについて把握していなかったが、マイナ救急によって受診歴と薬剤情報が確認でき、医師に伝達できた。

**事例** (高齢者 / 呼吸困難)

情報の正確性に有用性を感じた事例

年齢・性別	70代・女性
発生場所	自宅内
通報内容	胸苦しさと呼気が苦しい（知人から通報）
接触時の状況	自宅居室内で坐位

概要

携帯で助けを求められた知人が付き添っていた。同居の息子がいるが、仕事で外出中であつた。

初診時傷病名・程度

うっ血性心不全・中等症

有用性

当番の循環器対応可能医療機関とは別の医療機関を受診していることを聴取するも、詳細までは聴取できず、どちらに搬送すべきか判断に迷ったが、マイナ救急による受診歴から、現在は受診していないことが判明し、円滑に病院選定ができた。

事例 (成人 / 交通外傷)

処方歴や通院歴がないことを確認できた事例

年齢・性別	50代・男性
発生場所	路上
通報内容	トラックと乗用車との交通事故（相手方から通報）
接触時の状況	路上を歩いていたが不穏状態

概要

傷病者は4トントラックの運転手で、乗用車に追突したものの、不穏状態であり、情報聴取は困難でなかった。
けいれんがあつたとの情報もあつたが、接触時は治まっていた。

初診時傷病名・程度

けいれん、交通外傷・中等症

有用性

傷病者本人から情報聴取はできなかったが、マイナ救急で情報を閲覧したところ、薬剤情報等のデータはなく、処方歴や通院歴はないと判断できた。

事例 (高齢者 / 飲酒後転落)

旅行者からの情報聴取に役立った事例

年齢・性別	60代・男性
発生場所	ホテルの階段
通報内容	弟が階段から転落（家族から通報）
接触時の状況	階段下で左側臥位

概要

飲酒後に階段から転落したもの。家族も飲酒しており情報収集が困難であつた。

初診時傷病名・程度

頭部打撲・軽症

有用性

旅行者はお薬手帳を持っていないことが多く、マイナ救急での薬剤情報は医師からも有用性を評価していただいている。改めて、マイナ救急は、飲酒している方や旅行者に役立つと感じた。

事例 (自損行為)

薬剤名・処方量が役立った事例

年齢・性別	10代・女性
発生場所	駅
通報内容	気分不快（友人から通報）
接触時の状況	駅構内で坐位。動悸と嘔気を訴えていた。

概要

自宅内で処方薬を多量服用し、動悸や嘔気があつたが、そのままアルバイトに向かった。帰宅途中に改善しないため友人が通報したもの。

初診時傷病名・程度

OD・中等症

有用性

OD（薬物過量服薬）は、服用した薬剤の名称と服用量の情報が重要である。本事案は、服薬場所と要請場所が異なり、状況の把握に苦慮したが、マイナ救急で薬剤情報を確認し、救命センター医師へ助言を求めることができたため、円滑に搬送先を決定できた。



- マイナ救急を標準的な手順の一つとして位置付け、分かりやすい運用フローの整備・周知や、救急隊ごとの実施状況の継続的な把握等に取り組んでおり、日常的な活用を通じて、必要な場面において迅速かつ確実にマイナ救急を実施できる体制を整えている事例を紹介します。

○船橋市消防局(管轄人口約65万人)

閲覧率を上げるための工夫	・救急隊員に対し、マイナ救急は、「 救急活動のスタンダード 」になると指導している。
	・ 全救急事案を対象 （緊急度が高く暇がない等例外あり）に、マイナ保険証の有無を確認の上、原則マイナ救急を実施している（「救急隊長判断で未実施」は基本的に無し）。
	・ 毎月、救急隊毎の「マイナ保険証の有無」及び「実施率」を集計している （3交代制のため、1部、2部、3部それぞれの実施率を把握）。また、カード、スマホどちらを読み取ったのかもチェックしている。
	・実施率が低い隊に対しては 個別にヒアリング を行っている。
	・ 活動要領のほか、マイナ救急実施のフローチャートを作成 し、一目で活動の流れが分かるようにしている。
救急隊員からの意見	・「お薬手帳があるからマイナ救急で情報を確認する必要がない」という意見があったが、お薬手帳は何冊もお持ちの方がいたり、シールを貼っていない方もいる。それに比べ、 マイナ救急は情報が集約されているだけでなく、正確性も担保 されていること、さらに、 傷病者の負担軽減や医療機関の迅速な治療に繋がる「傷病者のための施策」 であることを、都度、救急隊員に説明している。
市民への周知・広報	・ポスターを消防署に掲示するだけでなく、 医療機関や官公庁、駅などに配付 し、掲示をお願いした。
	・医療機関のデジタルサイネージで普及啓発動画を放映
	・広報誌やホームページへの掲載
	・今後、 市民向けのシンポジウムでマイナ保険証の持ち歩きを促す 予定



マイナ救急運用フロー

マイナ救急実施フローチャート

1 出動前準備

大交代後、端末の再起動及びOSアップデートの有無の確認を実施したのち、VPN回線へ接続する
※出動する毎にVPN回線に接続する必要はない（接続が切断してしまった場合は再接続が必要）

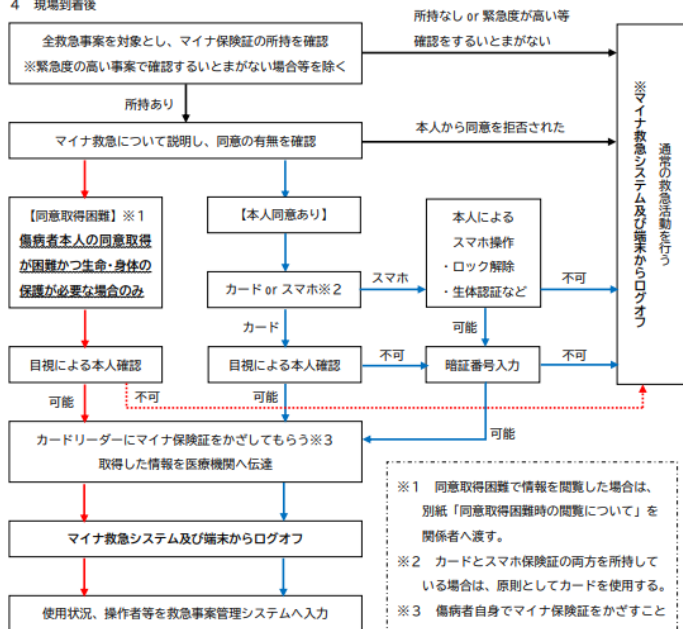
2 119番受付～現着まで

指揮指令課指令員にて通報者へマイナ保険証の準備を依頼 or 救急隊にてPACを実施しマイナ保険証の準備を依頼
※可能な限り、依頼時にマイナ救急について事前に説明しておくこと

3 出動中の救急車内（現場滞在時間短縮のため可能な限り実施すること）

・救急隊長は端末操作者を指名（救急隊長自身が操作する場合は不要）
・マイナ救急システムにログインし、「救急隊用医療機関情報閲覧」を選択
※マイナ救急システムにログイン後、30分間操作がない場合は自動で当該システムからログオフされる

4 現場到着後



～ポイント～

出動前準備

・出動前準備として、事前にVPN回線に接続する。

119番受付～現着まで

・119番通報受信時又は救急隊によるPAC（プレアライバルコール）時にマイナ保険証の準備を依頼する。

出動中の救急車内

・出動中の救急車内でマイナ救急システムにログインする。

現場到着後

・全救急事案を対象（緊急度が高い場合等、暇がまい場合等を除く）

・カードとスマホ保険証の両方を所有している場合、カードを使用する

マイナ救急の有用性を確認できた事例										
※提出は任意であり、可能な範囲での記載で構いません ※本内容は各消防本部への事例共有やマイナ救急の効果の確認を目的に使用させていただきます ※公開する場合、消防本部名の公表はいたしません				都道府県		本部名				
				担当者		連絡先				
通報内容										
主訴						通報者				
事案 年月日		令和 年 月 日			傷病者 (性別・年齢)		性別		年齢 歳	
救急隊到着時状況 ・ 接触時の現場/傷病者の状況 ・ 関係者の有無/誰がいたか ・ 傷病者、関係者からの情報聴取が可能であったか		〈接触時の現場/傷病者の状況〉								
		〈関係者の有無/誰がいたか〉 有（間柄： ） 無								
		〈傷病者、関係者からの情報聴取が可能であったか〉								
		傷病者	可能	不可	家族等	可能	不可	関係者なし		
救急隊の活動内容 ・ バイタルサイン ・ 身体所見 ・ 行った処置		〈バイタルサイン〉								
		JCS		呼吸	回/分	脈拍	回/分	血圧	/ mmHg	
		SpO2	%	体温	℃	その他				
		〈身体所見〉 〈行った処置〉								
傷病者情報		初診時の傷病名				初診時の傷病程度				
有用性 ・ マイナ救急で何の情報を閲覧したか （救急用サマリ、薬剤情報、特定健診情報等） ・ 通常の救急活動との違い 等										
所感 ・ 救急隊、傷病者、家族、関係者、医師からのコメント										
回答先：消防庁救急企画室 救急安全係 （ kyukyuanzen@soumu.go.jp ）										